

巻頭言

『フォーラム人文学』第14号をお届けします。

本誌『フォーラム人文学』は、文学部・文学研究科教育促進支援機構の活動を会員である教員と学生に向けて報告するとともに、文学部・文学研究科の研究教育活動を紹介する定期刊行物として、教育促進支援機構の創立に合わせて創刊されました。文学部創立50周年（2003年度）の一環として設立された教育促進支援機構は、「教育促進支援機構の理念と構想」と題された文章（本誌0号に掲載）で初代会長金子曉嗣先生が述べておられる通り、教員と学生が対等な立場で運営に参画しながら学生自身の主体的な学びを支援するユニークな組織として発足しました。その後、設立から10余年の年月が経ち、支援機構は当初の理念として掲げられた「学生の、学生による、学生のための組織」にふさわしい学生の活発な参加に支えられ、文学部・文学研究科の教育研究活動に欠かせない役割を果たすにいたっています。しかし、その一方で、発足当初の組織運営の仕組みが支援機構の活動内容の広がりや齟齬をきたすようになり、いくつかの運営上の問題も明らかになってきました。

こうした認識にたち、支援機構では昨年度より本格的に組織改革に着手し、本年度から新たな運営組織のもと活動を開始しました。具体的には、評議員制度に代わって運営委員会を中心にした意思決定の仕組みを導入し、従来の教育支援・研究支援・進路支援・編集の4部門に加えて、市大授業やオープンキャンパスの企画運営に取り組む広報部門を創設しました。こうした改革によって、学生と教員が対等な立場で意思決定に関与しながら、教員と学生の双方に対して豊かな学びの機会を創出する支援機構の活動がさらなる発展をみることを期待しています。

以上のような支援機構自体の改革にともない、本誌『フォーラム人文学』も内容の見直しを行いました。卒論・修論題目一覧のような重要なコンテンツは維持しつつ、本誌の中心的な役割である支援機構の活動報告をより充実させ、優秀卒論・優秀修論の紹介は文学部・文学研究科ホームページ内にある支援機構のページで公開することにいたしました。また本号では、オリジナル企画として、昨年11月にグランフロント大阪で開催され、マスコミでも話題になった文学研究科オープンファカルティ「文学部の逆襲」を取りあげ、当日のシンポジウムで議論された文学部・人文学の意義に関する教員インタビューを掲載しています。

読者の皆さまには、支援機構の活動内容をご覧いただき、教育促進支援機構のメンバーとして、支援機構への一層の支援をお願いして巻頭言に代えさせていただきます。

文学部・文学研究科教育促進支援機構
会長 海老根剛
(表現文化学専修/表現文化コース 教員)